

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																			
専門学校 久留米自動車工科大学校		昭和51年4月1日	荒木 猛夫	〒834-0115 福岡県八女郡広川町大字新代1428-21 (電話) 0943-32-0281																			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人 久留米工業大学		昭和33年8月13日	島原 修一	〒830-0052 福岡県久留米市上津町2228の66番地 (電話) 0942-22-1234																			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
工業	工業専門課程	車体整備工学科		平成23年文部科学省 告示第166号	—																		
学科の目的	教育基本法、学校教育法及びその他の教育に関する諸法令に基づき、高等学校教育の基礎の上に専門の知識・技能の教育を行い社会に有用な技術を修得させる。二級自動車整備士の知識を備えながらも、自動車の車枠及び車体に関する知識と整備技術、板金・塗装に関する専門技術を学び、車体整備士及び二級自動車整備士の資格を取得し、自動車整備の専門分野である板金・塗装に関するリーダーとなる人材を育成することを目的とする。																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3年	昼間	2,778 時間	858 時間	—	1,920 時間	—	—																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
90人		65人	0人	13人	2人	15人																	
学期制度	■前期:4月1日～10月15日 ■後期:10月16日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科は期末テスト平均点数、実習は各サイクル後に行う試験点数、レポート点数、出席点数の総合点数にて評価する。評価判定基準は、優(80点～100点)、良(70点～79点)、可(60点～69点)とする。																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月4日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■学年末:3月21日～3月31日		卒業・進級条件		全科目が60点以上の成績に達し、素行良好と認められ、本校の定める車体整備工学科卒業・進級に必要な授業時間数を満たす者。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学修についての疑問点や不明な点については、学科担任及び実習担任の教員に質問できる様に連絡方法を周知		課外活動		■課外活動の種類 地域清掃のボランティア活動、献血への参加 ■サークル活動: 無																		
就職等の状況	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 国内自動車製造メーカー系列の販売店(自動車ディーラー)、民間車検場、民間板金塗装工場 ■就職指導内容 企業からの募集情報の提供、履歴書や面接の受け方の指導、企業ガイダンスの開催など		主な学修成果 (資格・検定等)		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する平成31年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>26人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>26人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>車体整備士</td> <td>②</td> <td>26人</td> <td>25人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	二級ガソリン自動車整備士	②	26人	25人	二級ジーゼル自動車整備士	②	26人	18人	車体整備士	②	26人	25人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
二級ガソリン自動車整備士	②	26人	25人																				
二級ジーゼル自動車整備士	②	26人	18人																				
車体整備士	②	26人	25人																				
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成30年4月1日時点において、在学者65名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者63名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 休学後の進路変更、成績不良による進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 成績不良者に対する補習・補講の実施、在籍クラス担任による学習指導や生活指導、休学後の復学に向けた意欲の喚起、保護者との緊密な連絡・相談など		■中退率 3%		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度 : 有 女子学生学費サポート制度、学力特待生制度など																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価 : 無																						
当該学科のホームページURL	www.kic-car.ac.jp																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校のカリキュラムは教務課を中心に作成しているが、このカリキュラムを自動車産業界の有識者を含めた教育課程編成委員会で精査審議し、今、社会で求められている産業人の育成と教育の質の向上につなげていくことを基本方針とする。

本校職員において、企業側(社会)が求める社会人像、あるいは入社前に身に付けておく礼儀、知識、技術などを正確に把握できていない事は大きな課題である。この課題を解決するため、教育課程編成委員会会議において、相互の教育方針、教育方法、人間教育、道徳心など多岐にわたって協議し、カリキュラムを修正及び新規カリキュラムの作成、授業内容・方法の改善等を提案していくことで、学校と企業との協調教育を実現させる。

年度内に2回の教育課程編成委員会を行うことを原則とし、第1回では、本年度のカリキュラムに関する問題点あるいは、改善提案等の収集、第2回では、来年度のカリキュラムの提示、新カリキュラム実施というPDCAサイクルによる教育プログラムの構築を行っていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学則に定めた全教育課程について、各学科ごとの担当教員(複数の場合は主たる教員)が授業計画(シラバス)を作成し、教育課程の所管課である教務課が調整する。調整した授業計画を教育課程編成委員会会議に提案し、当該委員会における審議・意見内容に基づき、学校において必要な修正内容を反映したうえで、最終の授業計画として決定・公表する。なお、教育課程編成委員会には、自動車整備及び板金・塗装の業務を実施している自動車ディーラー等の企業委員を構成員とするとともに、学校長を委員長に、企業出身委員を副委員長として、組織機能の実効性を担保している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
坂口 浩史	日産プリンス福岡販売株式会社	平成31年4月1日 ~令和3年3月31日	③
富永 昭彦	ネットヨタ西日本株式会社	平成30年4月1日 ~令和2年3月31日	③
矢加部 仁	ネットヨタ西日本株式会社	同上	③
仲村 崇文	福岡日産株式会社	同上	③
山口 正宏	福岡トヨペット株式会社	同上	③
深江 徹	(一社)福岡県自動車整備振興会	同上	①
荒木 猛夫	専門学校 久留米自動車工科大学校	同上	②
杉野 啓司	専門学校 久留米自動車工科大学校	同上	②
森 高浩	専門学校 久留米自動車工科大学校	同上	②
田所 文男	専門学校 久留米自動車工科大学校	平成31年4月1日 ~令和3年3月31日	②

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回開催 8月及び2月

(開催日時(実績))

平成30年度 第1回 平成30年8月9日 16:40~16:55

平成30年度 第2回 平成31年2月14日 15:30~15:50

令和元年度 第1回 令和元年8月8日 16:40~16:55

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ・ 本校へ販売会社から講師を派遣していただき、社会人としての心構え等の授業が行えないかという提案をしたところ、1年生向けに「社会人基礎講座」というセミナーを毎年6月に開催することになった。講師をできるだけ本校の卒業生にさせていただくことで、学生への親近感を持たせる工夫をしている。
- ・ 販売会社の方から、「他校では2年生においてインターンシップを行っているが貴校では行わないのか」という意見があり、本校でも2年生の夏休み期間中を利用したインターンシップを検討することとした。
- ・ 過去のシラバスに関して、各委員から指摘があった部分の改正を行った。
 1. 通期という表記を、前期・後期と明確化
 2. シラバスに到達目標を記載(令和2年度より)
 3. 試験点・出席点・授業態度点の配点比率が学年で違っていたため、全学年で統一
 4. 授業態度点の廃止
 5. 質問等が迅速に解決できるように、各教科担当のメールアドレスを記載

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

車体整備工学科の1年及び2年においては、自動車整備の基本となる二級自動車整備士資格取得に結びつく学科及び実習を取得するため、基本となる学科・実習については学校教員が教授する。一方で、メカニック技術は各自動車メーカーによって各々取り組まれており、市場オープン性を踏まえながら、メーカーサイドの整備技術や、専門分野である板金・塗装技術等の先進的スキルを企業連携による授業により学ぶこととしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

自動車整備に関する実習担当教員と企業の講師が実習前に事前に打ち合わせを行い、実習内容を決定する。実習は連携企業の講師を中心として本校担当教員がサポートする形で行い、新機構を備えた自動車を使用しその機構に関する知識・技術を学ぶ。なお、実習終了時には、企業と本校で作成した実習理解度テストを行い、学習の成果を確認する。なお、生徒の学習成果の評価は、実習後の理解度テストを6割、実習時の態度点を4割として算出したものを連携実習の評価点とし、年間総合評価に反映させる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
自動車整備・エンジン	日常点検と12か月点検についての実習	株式会社九州マツダ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

自動車の進歩はめざましく、日々新しい技術が投入されている。これらの新技術に対する職員の情報源は、専門誌、新聞、インターネットなどに限られてしまい、自動車専門学科の教員としてスキル向上を目指す上で情報不足となりがちである。これらを補うため、企業の講習会、研修会等に参加することで活きた情報あるいは技術を習得し、リアルタイムで授業に反映させる。

また、指導力の修得・向上に関しては、外部講師を迎え専門性の高い講義を行ってもらい、生徒に対する話し方や言葉の選び方等から心理状態まで幅広く学び、教師としてのスキルアップを図って行く。

これらの研修等は、久留米自動車工科大学校における教員研修規程に基づき、工学部専任教員全員を対象として実施される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修企業 : 日産自動車株式会社	研修対象 : 工学部専任教員
研修期間 : 平成30年7月24日～7月25日	関連する授業科目 : エンジン構造
研修内容 : 電気自動車に関する新技術及びGTR試乗 1. e-POWER技術説明 2. e-PEDAL技術説明 3. 新型車及びGTR試乗	

研修企業 : ケーユーホールディングス	研修対象 : 工学部専任教員
研修期間 : 平成30年8月2日～3日	関連する授業科目 : エンジン構造・シャシ構造
研修内容 : 新技術及び販売会社の見学 1. ベンツのインテリジェント・ドライブ 2. BMWパーキング・サポート 3. 輸入車最新エンジンの紹介 4. ベンツ及びBMWの販売会社見学	

研修企業 : マツダ株式会社	研修対象 : 工学部専任教員
研修期間 : 平成30年8月7日～8月8日	関連する授業科目 : エンジン構造
研修内容 : 新技術及び新型車試乗 1. 新型スカイアクティブ・ガソリンエンジンについて 2. 新型アテンザの試乗 3. 新型ロードスターの試乗	

研修企業 : UDTトラックス	研修対象 : 工学部専任教員
研修期間 : 平成30年8月27日～8月28日	関連する授業科目 : エンジン構造・シャシ構造
研修内容 : 新技術及び組立ラインの見学 1. UDTトラックス・スマート・ロジスティックに向けた次世代技術 2. シャシ及びエンジン組立てライン見学 3. 新型トラックの試乗	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修企業 : 久留米市教育センター	研修対象 : 工学部専任教員
研修期間 : 平成30年8月24日	関連する授業科目 : 全教科
研修内容 : 学科授業における教育指導方法 1. アイスブレイク 2. 学習指導 3. 授業構想に関する指導技術 4. 授業展開に関する指導技術	

研修企業 : 福岡県専修学校各種学校協会	研修対象 : 工学部専任教員
研修期間 : 平成30年8月28日～29日	関連する授業科目 : 全教科
研修内容 : 新任指導力 1. メンタリングとは 2. メンタリング技術 3. 総合実践演習	

(3) 研修等の計画 (令和元年度)

①専攻分野における実務に関する研修等

研修企業 : 日産自動車株式会社	研修対象 : 工学部専任教員
研修期間 : 令和元年8月5日～8月6日	関連する授業科目 : シャン整備
研修内容 : 最新技術研修と体験試乗 1. エマージェンシー・ブレーキについて 2. 往路パイロット・パーキングについて 3. E-POWERについて 4. 最新技術搭載車の試乗	

研修企業 : トヨタL&F福岡株式会社	研修対象 : 工学部専任教員
研修期間 : 令和元年8月5日～8月6日	関連する授業科目 : 自動車総論
研修内容 : 物流に関する最新技術と業界説明 1. 物流の自動化 2. トレーニングセンターの見学及びトレーニング内容	

研修企業 : マツダ株式会社	研修対象 : 工学部専任教員
研修期間 : 令和元年8月8日	関連する授業科目 : エンジン整備
研修内容 : 新型エンジンの技術解説 1. スカイアクティブ・エンジンの構造説明 2. 新型診断機の取扱い 3. マツダコネクテッド・サービスの説明	

研修企業 : 株式会社 バンザイ	研修対象 : 工学部専任教員
研修期間 : 令和元年8月9日	関連する授業科目 : シャン整備
研修内容 : 整備業界の動向とこれからの準備 1. 整備業界の現状とこれから 2. トータルエイミングについて	

研修企業 : 株式会社ケーユーホールディングス	研修対象 : 工学部専任教員
研修期間 : 令和元年8月20日～8月21日	関連する授業科目 : エンジン構造・シヤン構造
研修内容 : 新技術及び販売会社の見学 1. BMW DSCiシステム 2. BMW アシスタントシステム 3. ベンツ 新型Aクラス 詳細説明 4. ベンツ及びBMWの販売会社見学	

研修企業 : 九州リオン株式会社	研修対象 : 工学部専任教員
研修期間 : 令和元年8月23日	関連する授業科目 : 故障原因探求
研修内容 : 環境騒音振動セミナー 1. 再生可能エネルギーを取り巻く諸問題	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修企業 : 臨床心理士・公認心理師	研修対象 : 工学部専任教員
研修期間 : 令和元年8月27日	関連する授業科目 : 生徒指導全般
研修内容 : カウンセラーとして先生方と一緒に考えていきたいこと 1. デジタル思考 2. 発達障害 3. 家族と、それを支える機能の低下	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

履修規則において、教育の一層の充実を図り、本校の設置目的及び社会的使命を達成するため、本校の教育活動その他の学校運営状況について、自ら点検及び評価する自己点検評価を行うことを定めている。また、当該自己点検評価を踏まえ、本校関係者等による学校関係者評価を行うこととしている。また、それらの評価結果は、公表することとしている。そのため、学校関係者評価委員会設置規則を定め、自己点検評価及び学校関係者評価の正当性を確保するため、自己点検評価及び学校関係者評価を、それぞれ年1回会議開催することとしている。また、会議において審議・提案された事項については、学校運営に有益と判断する事項については、予算や体制などを踏まえたうえで実施方法等を検討し、学校運営の改善を図ることとしている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は持っているか ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の教育理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。 ・学科やコースの教育目標、育成人材像は、それぞれに対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか ・運営組織や意思決定機能は、有効に機能しているか ・人事等に関する規定等は整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適正になされているか ・システム化等により業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間確保は明確化されているか ・学習等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか ・関係分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定基準は明確になっているか ・資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上の取組みがなされているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生等の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は教育上の必要性に十分対抗できるように整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・校納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適切に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開している
(10) 社会貢献・地域貢献	—
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

平成31年4月に開催した学校関係者評価委員会の審議において、学生支援に関する事項及び教育活動に関する事項について、意見が提案された。学生支援に関しては、女子生徒に特化した支援の内容確認と、その効果、男子生徒からの意見等の確認がされ、それぞれ回答した。委員からは、女性の整備士養成ニーズは強く、学費サポートの効果があるのであれば、継続するのが良いとの意見であった。今後も、財務的な制約下において、学校運営に資することから当該支援制度は継続することとした。教育活動における人材確保に対する学校側の姿勢が問われ、将来の教育体制を充実確保するため、より積極的な人材確保に取組むこととした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月10日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
岡 大 介	久留米自動車工科大学校同窓会	平成30年4月1日 ～令和2年3月31日	卒業生
奥 園 金 純	久留米自動車工科大学校後援会	平成31年4月10日 ～令和2年3月31日	PTA
金 納 弘 奇	祐 誠 高 校 教 師	平成30年4月1日 ～令和2年3月31日	教育者
深 江 徹	(一社)自動車整備振興会	同 上	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法 : ホームページ (URL:www.kic-car.ac.jp/school/jissen/)

公表時期 : 令和元年6月20日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対する情報提供は、企業等出身者委員を教育課程編成委員会委員として複数(6名)委嘱し、会議において教育活動その他の学校運営状況に関する情報を提供する。また、一般の企業等学校関係者に対する情報提供は、本校のホームページに職業実践専門課程の基礎情報、専門学校久留米自動車工科大学校情報公開を基本に、学校運営に関する情報を提供している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・校長名、所在地、連絡先 ・学校の沿革・歴史 ・教育活動内容 ・施設・設備
(2) 各学科等の教育	・各課程の定員数 ・カリキュラム ・取得可能な資格ならびに免許 ・国家試験合格率の実績 ・就職試験合格率の実績 ・卒業者数 ・卒業後の進路
(3) 教職員	・教職員プロフィール(担当科目・職歴・資格等)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 ・部活動、放課後活動等の状況
(6) 学生の生活支援	・学生支援への取組状況 ・学生寮に関する案内
(7) 学生納付金・修学支援	・生徒納付金の取扱い ・活用できる就学支援金の内容
(8) 学校の財務	・資金収支計算書 ・消費収支計算書 ・貸借対照表 ・損益計算書 ・財産目録
(9) 学校評価	・自己評価・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	・学則

(3) 情報提供方法

- ・ホームページ(www.kic-car.ac.jp/school/guide/disclosure)
- ・広報誌等の刊行物
- ・その他(キャンパス・ガイド、募集要綱)

授業科目等の概要

(工業専門課程車体整備工学科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			教 養 知 識	就職活動における一般常識の実力の養成及び社会人としての教養を学習	1前	16		○			○	○			
○			教 養 知 識	就職活動における一般常識の実力の養成及び社会人としての教養を学習	3前	8		○			○	○			
○			ビ ジ ネ ス マ ナ ー	就職活動に関する心構えから基礎を学び、社会人としての教養を学習	1通	30		○			○	○			
○			パ ソ コ ン の 基 礎	パソコンの文章および表計算への文字・計算式の入力方法を学習	1前	16		○			○	○			
○			エ ン ジ ン 構 造	内燃機関の基礎、ガソリン・エンジン及びディーゼルエンジンの構造、作動、特徴を学習	1通	58		○			○	○			
○			シ ャ シ 構 造	フレーム、動力伝達装置、ステアリング、タイヤ、ブレーキなど自動車の部品・構造を学習する	1通	58		○			○	○			
○			電 装 品 構 造	自動車の電気装置（バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置、計器等）の基本事項を学習	1通	58		○			○	○			
○			二 輪 自 動 車 構 造	二輪自動車の構造、エンジン、燃料装置、排気装置、電子制御システムなどを学習	1通	30		○			○	○			
○			自 動 車 総 論	自動車の概要、構造、諸元、性能などを学習	1前	16		○			○	○			
○			特 殊 機 構	自動車に起因する大気汚染、騒音問題、オゾン層破壊、地球温暖化等の環境問題対応を学習	2通	45		○			○	○			
○			自 動 車 の 力 学	自動車工学の基礎知識・計算方法、速度・加速度・力・回転力などからの軸出力・熱効率の算出方法を学習	1通	30		○			○	○			
○			自 動 車 の 数 学	軸重、レッカー車両、電圧、合成抵抗等自動車に関する数学を学習	2通	45		○			○	○			
○			電 気 工 学	自動車整備に必要な電気の基礎理論を学習	1前	16		○			○	○			
○			自 動 車 材 料	自動車に使用される金属、非金属の性質、加工法、検査法などの基礎知識を学習	2前	24		○			○	○			
○			燃 料 ・ 油 脂	ガソリン、軽油、潤滑剤、作動油の組成、企画などを学習	1前	16		○			○	○			
○			製 図	製図器材と使用方法、図面の構成、表し方、図法等を学習	2前	24		○			○	○			

○		ガソリンエンジン整備	ガソリンエンジンの燃焼方式、バルブ・タイミング、構造、冷却装置、燃料装置、電子制御装置などを学習	2通	49	○		○	○										
○		ジーゼルエンジン整備	ジーゼルエンジンの燃焼方式、バルブ・タイミング、構造、冷却装置、燃料装置、電子制御装置などを学習	2通	35	○		○	○										
○		シャシ整備	動力伝達装置、制御装置、安全装置、電子成業などの構造や性能、整備・点検等を学習	2通	63	○		○	○										
○		二輪整備	エンジンやエンジン制御等の電子制御に使用されるセンサー、アクチュエーターの信号、電圧、故障診断等を学習	2前	20	○		○	○										
○		電装整備	バッテリー、プラグ、ボルテージレギュレーター、メーター等電子制御による機械・装置の基本と故障探求の方法を学習	2通	49	○		○	○										
○		故障原因探究	自動車の故障原因探究の考え方や手順を、ガソリンエンジン、電子制御式燃料噴射装置、ジーゼルエンジン、電装品、シャシ等を対象に学習	2前	20	○		○	○										
○		整備作業機器	自動車整備作業に使用する工具・機器類の構造・機能、使用方法を学習	1通	30	○		○	○										
○		測定機器・検査機器	道路運送車両法により規定されている、自動車検査に使用する検査用機器の構造と取扱い方法を学習	2後	14	○		○	○										
○		検査	道路運送車両の保安基準に基づき、自動車整備・検査に関する技術的な基準を学習	2通	30	○		○	○										
○		法規	自動車整備に必要な道路運送車両法及び検査制度、自動車分解整備事業を学習	2通	30	○		○	○										
○		材料	自動車に使用される金属材料、鉄鋼材料、アルミニウム、合成樹脂の性質等を学習	3前	13	○		○	○										
○		力学	自動車の車枠・車体にかかる荷重文責の状態及び計算方法を学習	3後	13	○		○	○										
○		構造機能	自動車のボデー構造の基礎を学習	3前	16	○		○	○										
○		整備	自動車車体の整備目的、ガス溶接及びアーク溶接、ボデーフレーム修正、カット、フレーム修正の基礎知識を学習	3通	92	○		○	○										
○		板金	钣金作業に必要なパネルの構造・性質、素材及び性質、作業手法を学習	3通	32	○		○	○										
○		塗装	塗装作業の全工程（前処理、下塗り、中塗り、上塗り）の塗料の種類・性質等、塗装設備、乾燥方法、補修塗装を学習	3通	76	○		○	○										
○		損傷診断	衝突事故等による車体の破損状況を分析し、車体の損傷診断の基礎を学習	3通	32	○		○	○										
○		手仕上げ・機械工作	金属材料の加工や仕上げ作業の実習を通して機械工具類の安全な取り扱い方を修得	1通	32			○	○		○								
○		基本計測	自動車整備に必要な部品や装置の測定方法を、使用する計測器の構造、原理、有効桁数、測定の実験を修得	1通	34			○	○		○								

○			基 本 計 測	電子制御化された自動車の故障診断に必要なオシロスコープの取扱い方法を修得	2 前	20					○	○	○				
○			自動車整備作業・エンジン	エンジンの動力発生原理・仕組みを実物で確認し、分解・組付けの手順、方法等の基礎を修得	1 通	649					○	○	○			○	
○			自動車整備作業・シャシ	シャシの実物を確認し、分解・組付けの 手順、方法等の基礎を修得								○	○	○			
○			自動車整備作業・電装	電装部品の実物を確認し、分解・組付け の 手順、方法等の基礎を修得								○	○	○			
○			自動車整備作業・エンジン	ジーゼルエンジン・ガソリンエンジンの 分解、組付け等の手順、方法、部品の取 扱い方等を修得	2 通	574					○	○	○				
○			自動車整備作業・シャシ	シャシの分解・組付けを通して、構造や 作動を学び故障内容を修得								○	○	○			
○			自動車整備作業・電装	電子制御等のトラブルを、テスタやオシ ロ・スコープ等の測定機器を使用して対 処する方法を修得								○	○	○			
○			自動車整備作業・故障診断	測定機器を使用した故障診断の手順等故 障探求方法を修得							○	○	○				
○			点検・分解・組立・調整・検査	ボデーを構成している部品の機能の点 検・建て付け・調整を学び、ボデーの曲 がりやねじれの計測機器による点検を修 得	3 通	122					○	○	○				
○			板 金	ハンマリング、鋼板の整形作業、パテ整 形、ボデーパネル修理を修得	3 通	122					○	○	○				
○			塗 装	塗装修理、下地処理と上塗り塗装作業等 の方法を修得する	3 通	366					○	○	○				
○			損 傷 診 断	フレーム修正方法、ボデー計測方法、事 故車の損傷診断方法を修得	3 通	122					○	○	○				
○			自動車検査作業	12か月点検作業及び24か月点検作業、完 成検査ライン、法令・検査の方法を修得	2 通	60					○	○	○				
合 計				48科目	3205単位時間(単位)												

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、必修科目の学科の期末試験平均点、実習のサイクルごとの試験、レポート、出席要件の総合点のそれぞれが60点以上であり、本校が定める授業時間するを満たした者とする。履修方法は主席状況は各科目の出席確認により、試験等の点数は期末試験受験等により確認する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。